

●優秀賞

「読書力」を支える 「読解力」育成の試み

兵庫県立宝塚市立仁川小学校 のむらみゆき
野村美由紀



〈概要〉

本論文は、「読解力」「読書力」「表現力」の三つの力を同時に高めていく学習指導のあり方の一例を示し、その有効性を報告するものである。

論文においては、自分の読んだ本について「おすすめの記事」を書くことを中核に据えた授業実践を展開している。

本実践の特徴は、(1)絵本の読み聞かせと感想交流を年間を通して継続する場、(2)お話相互の共通性を整理集約し、読みどころの観点として活用する場、(3)自分の考えを「おすすめ」としてまとめ、明確に主張する場、の設定にある。展開については、①的確に読み取る【読みたい】②自分なりの感動点を浮き彫りにする【知りたい】③自信をもって伝える【伝えたい】の3点に焦点化した。

本実践の有効性を示す事例として、主要な教科書教材「てがみ」「サラダでげんき」「はるのゆきだるま」と、年間を通して読み聞かせてきた90冊の絵本との比較・吟味等を行う学習活動について詳述した。

1. 「読解力」「読書力」「表現力」を効果的に育む

新学習指導要領は、読解と読書との関連指導をより積極的に行うように改訂されている。低学年の「読むこと」領域の言語活動例は、例えば、

「エ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと」など、相対的に書く活動が強調された。PISA 型「読解力」への対応を念頭に、「読むこと」領域の指導事項でありながら、書く活動が強調されている。つまり、「読解力」は「表現力」に支えられているということである。

一方、「読書力」も「読解力」に支えられている。たとえ低学年であっても、相応の読解力がなければ、読書できない。「読書力」と「読解力」は不可分の関係である。「読解力」と「読書力」、さらには自分の考えを主張できる「表現力」の三つの力を、同時に高めていく学習指導のあり方が求められている。

2. 「おすすめの記事」を書くことを中核に —【読みたい】【知りたい】【伝えたい】—

本実践は、小学校第1学年における年間を通して行った取り組みである。「読解力」「読書力」「表現力」を効果的に育成するために、自分の読んだ本について「おすすめの記事」を書くことを中核に据えている。「おすすめの記事」を書くためには、物語全体を俯瞰することに加えて、物語の立ち止まるべきところに立ち止まり、読みどころを落とさないで読む「読解力」を踏まえた「読書力」が求められる。また「おすすめ」のためには、相手に自信をもってわかりやすく伝える力が要求される。つまり、筋道を立

てて、根拠を示しながら、自分の考えを論理的に表現しようとする「表現力」が求められる。

こうした力を育むためには、次のような場を設定することが有効であると考えた。

- (1) 絵本の読み聞かせと感想交流を年間を通して継続する場
- (2) お話相互の共通性を整理集約し、読みどころの観点として活用する場
- (3) 自分の考えを「おすすめ」としてまとめ、明確に主張する場

取組みの概要について整理したものを、資料1として示した。

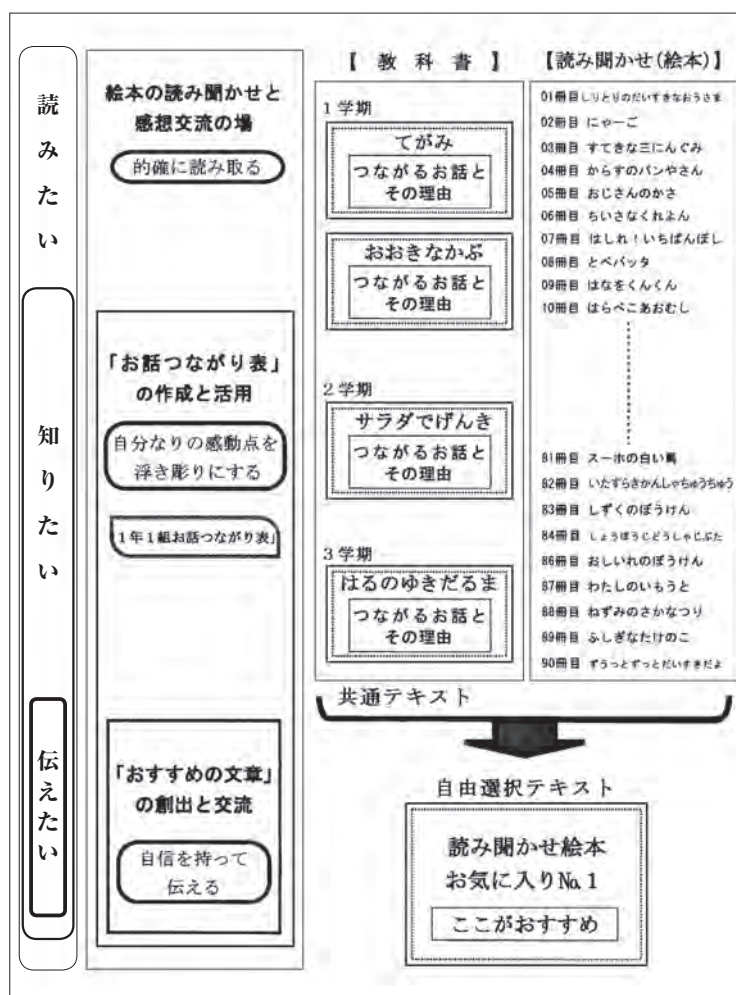
(1) 絵本の読み聞かせと感想交流を年間を通して継続する場

年間を通して読み聞かせを行う。絵本の読み聞かせは、作品全体を俯瞰することに効果的である。1学期のはじめは入門期に当たり、文章だけでは、お話をとらえにくい児童もいる。そこで、大型絵本を活用する。大型絵本は、視覚による情報量が多く、挿絵により登場人物の表情や動き、場面の様子をとらえることが容易である。そのことにより、抵抗なく話の展開を読み取ることができる良さがある。大型絵本から段階を追って、普通サイズの絵本へと移行させていく。

読み聞かせの途中や読み聞かせ後においては、子どもたちのつぶやきや発言に対して、意図的に対応するよう留意する。さらに、読み聞かせ後には、絵本の内容に関する感想を述

べる場を設定し伝え合う場をもつ。感想を聞き合うことによって、子どもたちは他者の読み取り方と自分の読み取り方を比べることができる。そして、他者との違いに気づき、他者の気づきの良さを取り入れることにより、自分の考えをはっきりと自覚しやすくなる。

また、読んだ絵本は、表紙の写真とともに感想として話題に上がった内容を簡単に書き込み、カード化して教室に掲示する。読み聞かせの記録として残すためである。カードの蓄積は、学習者にとっての読書履歴であり、読み聞かせによって得た情報を目に見える形に表したものである。蓄積された、読み聞かせリストの情報から、「読みの観点」が抽出されていくことになる。



●資料1 / 読書を支える「読解力」育成の試み（1年生）実践の概要図

(2) お話相互の共通性を整理集約し、読みどころの観点として活用する場

読み聞かせを継続し、感想を交流する場を保証することにより、作品と作品とを比較し、作品相互の共通性をとらえさせるようにする。それが「つながり」である。「つながり」として挙げられた項目は、お話を読み進めるための観点、つまり目のつけどころや立ち止まりどころである。例えば、事件の展開と解決、登場人物の行動の変化などである。読み聞かせから得た情報の中から共通性「つながり」を分類整理し帰納的に読みの観点を導き出すことが可能となる。

教科書教材を学習したのち、教材と「つながり」をもつ作品を読み聞かせリストの中から探し、なぜ「つながり」があると考えたのかを述べさせていく。この「つながり」を整理し集約し、読みどころの観点(「1年1組お話つながり表」として明示する。これらの観点を活用することによって、多様なお話の面白さに気づくことができる。

(3) 自分の考えを「おすすめ」としてまとめ、明確に主張する場

整理集約された読みどころの観点を活用して、「絵本のおすすめ」をする学習活動を設定する。具体的には、教科書教材「はるのゆきだるま」の良さや面白さを「つながり」の項目を使って相手に伝えるのである。

まず「はるのゆきだるま」のお話を、自分はこの観点で読んでいくのか選択決定するところから始める。子どもたちは、読み手としての立場をはっきりさせることになる。

次に、「おすすめの根拠」を書き添える。なぜ、その「つながり」を選んだのか、その観点から読むことを判断・選択したのか、そのわけについては、自分の言葉で書き切らせるようにする。文章の量の多少が問題なのではない。何を書かせるか質の高さが重要なのである。

こうした活動を、「おすすめの相手を学級内

他者から学級外他者へ」「おすすめの対象を共通テキストから自由選択テキストへ」と段階的に行っていく。

(1)から(3)の場の設定によって、子どもたちの立ち向かう学習は、次の3点に焦点化することができる。

- ① 的確に読み取る【読みたい】
- ② 自分なりの感動点を浮き彫りにする【知りたい】
- ③ 自信をもって伝える【伝えたい】

これらの3点を分析の観点として、本実践の有効性を評価していきたい。

3. 「読み聞かせ」から「つながり」発見へー【読みたい】

(1) 「読み聞かせ」と「話し合い」の継続を

入学式から絵本の読み聞かせを行い、年間を通して90冊の絵本を紹介した(資料2)。

読み聞かせの後には必ず、絵本の内容に関する感想を述べるよう促し、伝え合う場を設定した。その内容を絵本の表紙とともに絵本カードに記録していった。

5月1日に読んだ「はなをくんくん」の絵本カードには、「ア. お話の展開や表現の特徴」「イ. 好きな場面についての感想」「ウ. 登場人物の行動に関する具体的なイメージ」「エ. お話の設定」といった内容が含まれている。

- ア. 「ねむっている・くんくん・かけていく」
がたくさんでてくる。
イ. きいろのはながさくところがすき。
ウ. はなのにおいをくんくんしながら、かけていったんじゃないかな。
エ. ふゆからはるへかわるおはなし。

6月30日に読んだ「ねずみのかいすいよく」の感想では、次のように、作品のプロット(作品の構造)に関する内容が出されていく。

【資料①】2009年度 1年1組 読み聞かせリスト		
1学期に読んだ本		
01冊目	09-04-09	しりとりのだいすきなおうさま
02冊目	09-04-10	にゃーご
03冊目	09-04-13	すてきな三にんぐみ
04冊目	09-04-15	からすのパンやさん
05冊目	09-04-20	おじさんのかさ
06冊目	09-04-23	ちいさなくれよん
07冊目	09-04-27	はしれ！いちばんぼし
08冊目	09-04-28	とべバツタ
09冊目	09-05-01	はなをくくん
10冊目	09-05-07	はらぺこあおむし
11冊目	09-05-08	かばくん
12冊目	09-05-11	おおきなかぶ
13冊目	09-05-12	モチモチの木
14冊目	09-05-13	月ようびはなにたべる？
15冊目	09-05-15	ねずみのでんしゃ
16冊目	09-05-25	ガンピーさんのふなあそび
17冊目	09-05-27	めつきらもつきらどおんどん
18冊目	09-05-28	ねずみのいもほり
19冊目	09-05-29	せんたくかあちゃん
20冊目	09-06-01	ねずみくんのチョコキ
21冊目	09-06-02	にんじんとごぼうとだいごん
22冊目	09-06-03	どうぞのいす
23冊目	09-06-04	花きき山
24冊目	09-06-05	どうやってねるのかな
25冊目	09-06-05	どうやってみまもるのかな
26冊目	09-06-08	ちからたろう
27冊目	09-06-09	王さまと九人のきょうだい
28冊目	09-06-10	大きなカエルティダリク
29冊目	09-06-11	999ひきのきょうだいのひっこし
30冊目	09-06-12	はなすもんかー
31冊目	09-06-15	くじらだ
32冊目	09-06-17	おまえうまそうだな
33冊目	09-06-18	すばやいどうぶつのろまなどうぶつ
34冊目	09-06-19	こすずめのぼうけん
35冊目	09-06-22	おばけのバーバパパ
36冊目	09-06-23	しっぽのはたらき
37冊目	09-06-24	ごりらのちびちび
38冊目	09-06-25	へびくのおさんぽ
39冊目	09-06-26	そらいろのたね
40冊目	09-06-29	コップをわったねずみくん
41冊目	09-06-30	ねずみのかいすいよく
42冊目	09-07-01	そらまめくんのベッド
43冊目	09-07-02	ぐりとぐら
44冊目	09-07-07	ともだちや2
45冊目	09-07-08	きょだいなぎょだいな
2学期に読んだ本		
46冊目	09-08-26	ねずみくんとおんがくかい
47冊目	09-08-27	ねずみくんのしりと
48冊目	09-08-31	くれよんのくろくん
3学期に読んだ本		
49冊目	09-09-01	にじいろのさかな
50冊目	09-09-02	じごくのそうべえ
51冊目	09-09-10	スイミー
52冊目	09-09-11	かにむかし
53冊目	09-09-14	ろくべえまってるよ
54冊目	09-09-15	オオカミのひみつ
55冊目	09-09-16	さんまいのおふだ
56冊目	09-09-16	ちいさなねこ
57冊目	09-09-17	どろんこハリー
58冊目	09-09-18	ジャックと豆のつる
59冊目	09-09-	くったのんだわらった
60冊目	09-09-24	ふしぎなキャンディーやさん
61冊目	09-09-25	玉ひきのやぎのがらがらどん
62冊目	09-09-29	てぶくろ
63冊目	09-09-08	どれがぼくのおうちかな
64冊目	09-10-6	11匹のねこ
65冊目	09-10-28	ぐりとぐらのえんそく
66冊目	09-10-28	よあけ
67冊目	09-10-28	あしあと
68冊目	09-11-02	くさぶえのね
69冊目	09-11-12	とうさんまいご
70冊目	09-11-29	こんとあき
71冊目	09-11-08	はないっぱいになあれ
72冊目	09-12-09	ふしぎのおうちはドキドキなのだ
80冊目	09-12-15	わんぱくだんのくりすます
10-01-13 ぞうくんのぶらんこ		
81冊目	10-01-13	ぞうくんのぶらんこ
73冊目	10-01-15	ちょんまげとのさま
74冊目	10-01-20	しゃっくりがいこつ
75冊目	10-01-25	ビノキオ
76冊目	10-02-04	ニコラスどこへいったの
77冊目	10-03-08	にじいろのさかなしましませたすける
78冊目	10-03-03	しんせつなともだち
79冊目	10-03-04	うさぎたちのにわ
80冊目	10-03-05	かもとりこんべえ
81冊目	10-03-09	スーホの白い馬
82冊目	10-03-10	いたずらきかんしゃやちゅうやちゅう
83冊目	10-03-11	しずくのぼうけん
84冊目	10-03-12	しょうぼうじどうしゃじぶた
85冊目	10-03-15	みんなうんち
86冊目	10-03-16	おしいれのぼうけん
87冊目	10-03-18	わたしのいもうと
88冊目	10-03-23	ねずみのかいすいよく
89冊目	10-03-24	ふしぎなたけのこ
90冊目	10-03-25	ずうっとずうっとだいすきだよ

●資料2／1年1組 読み聞かせリスト

オ. おとうさん、おぼれそう。 →びんち
 カ. うきわをつないで →あいであ
 みんなでひっぱる。 →きょうりよく
 キ. こどもたちが、おとうさんをたすける。
 →ぎゃくてん

子どもたちは、オ「びんち」、カ「あいであ」
 「きょうりよく」、キ「ぎゃくてん」といった言葉
 を使い始めたのである。「おとうさんがおぼ
 れそうになる」という事件を解決するための要

因を読み取って表現されている。また、父と子
 の立場が入れ替わるお話の面白さを「逆転」と
 いう言葉でとらえているのである。この段階で、
 「絵本カード」に添えられている感想は、部分
 的なものから全体をとらえたものへと変化しつ
 つある。子どもたちの感想を伝え合ったことが、
 読みの広がりや深まりを生んだのである。

(2) 「つながり」が見える絵本カード

絵本カードは教室の壁面へ掲示し、子どもたちがいつでも見ることができるようにした（資料3）。

絵本の読み聞かせを聞いた子どもたちは、読書履歴である絵本カードを見ることによって、絵本と絵本の共通点や相違点を見つけ出すことができるのである。

通常の読み聞かせでは、「どこが面白かったか」といった簡単な感想を聞いて終わることがほとんどである。1冊ずつの絵本が独立して扱われるのである。読み聞かせの履歴と絵本相互の関係性を、掲示物によっていつでも取り出せる形に残したことにより、『にゃーご』と似ている」といった発言を引き出すことができる。今まで、一つ一つ別のものとしてとらえていた絵本が「つながり」によって結びつくことを発見した子どもたちは、さらに新たなつながりを求めて、絵本を読むことになる。



●資料3／教室に掲示された「絵本カード」例

(3) 「つながり」をより意識づけるワークシート

お話のつながりに目を向けつつある子どもたちに、教科書教材の文学作品につながる絵本を選ばせ、それを選んだ理由を尋ねる学習活動を設定する。教科書教材は、「てがみ」（森山京・6月教材）、「おおきなかぶ」（内田莉莎子・7月教材）、「サラダでげんき」（角野栄子・10月教材）である。それぞれの使用したワークシートは、選んだ絵本の表紙をはり、「これが『つ

ながり』のひみつです」を自由に記述させる簡単な構成になっている。

「てがみ」につながるお話として子どもたちが選んだ絵本は、下に示したように全部で16冊あり、そのうち5冊の絵本を複数の子どもが選んでいた。

- 「モチモチの木」（7名）
- 「おまえうまそうだな」（5名）
- 「ちいさなくれよん」（4名）
- 「くじらだ!」（2名）
- 「すてきな三にんぐみ」（2名）
 - ・「ねずみのでんしゃ」（以下1名）
 - ・「おぼけのバーバパパ」
 - ・「しりとりのだいすきなおうさま」
 - ・「へびくんのおさんぽ」
 - ・「花さき山」
 - ・「きょだいなきょだいな」
 - ・「ちからたろう」
 - ・「はなをくんくん」
 - ・「王さまと九人のきょうだい」
 - ・「こすずめのぼうけん」
 - ・「にゃーご」

「モチモチの木」を選んだ子どもが最も多く、7名であった。「これが『つながり』のひみつです」の欄には資料4に示したような内容が書かれていた。多くの子どもたちは、「登場人物Aが登場人物Bのために何かをしてあげた」というつながりを二つのお話の共通点として取り上げている。「てがみ」では、きつねの子がねずみさんのために手紙を書いた、「モチモチの木」では、豆太がじいさまのために医者様を呼びに走ったという内容である。

「おまえうまそうだな」「ちいさなくれよん」についても、「登場人物Aが登場人物Bのために何かをしてあげた」という共通性をつなぐ理由として書いている。お話のプロット（作品の構造）をとらえた上で「つながりの理由」が記述されているところに注目したい。

1年生の1学期という時期に、お話同士の

する感想を述べることから、プロットを踏まえた考えを述べることへの大きな転換を図ることができる。

資料5の子どもは、お母さんが元気になった理由として、動物たちみんなが協力してくれたから、お母さんが元気になったことを述べている。さらに、動物たちは、自分にとって大事な食べ物を教えてくれたという解釈を展開している。7種類の動物たちが何をもってきてくれたのかを的確に読み取った上で、動物たちのもってきてくれたものが、それぞれの動物自身にとってどのような意味をもつのかという解釈ができています。

資料5以外では、「それぞれの動物にふさわしい材料がもち込まれている」「りっちゃんのお母さんに対する願いが強い」「お母さんの病気を治すことに役立った」といった解釈が出された。これは、絵本の読み聞かせを取り入れ、「つながり」をとらえさせる学習活動の継続が、子どもたちの因果関係をとらえるという思考を促進させているということの証しでもある。

(2) 読みどころの観点「1年1組お話つながり表」の作成

教科書教材「サラダでげんき」の読解学習を終えた子どもたちは、「サラダでげんき」と「つながり」をもつお話を今まで読んできたお話の中から見つけ出していった。教科書教材につながる絵本を選び、その理由を書く学習活動は、「てがみ」「おおきなかぶ」に引き続き3度目である。1度目、2度目の学習時と比べ、いろいろな角度からお話の面白さや特徴をとらえて読むことができるようになっている。

「サラダでげんき」につながるお話として子どもたちが選んだ絵本は、右上に示したように、合計19冊であり、その中の8冊の絵本を複数の子どもが選んでいる。

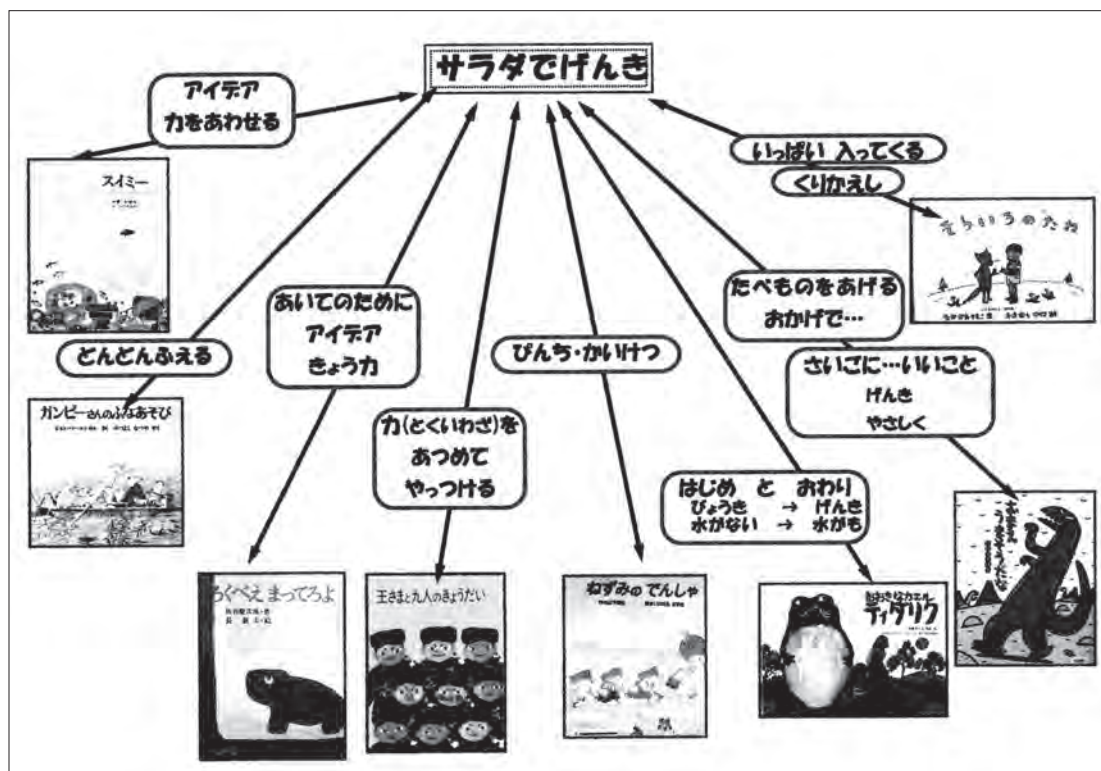
それぞれが選んだ本との「つながりの理由」として、右下に示したような内容が書かれている。

- 「モチモチの木」(5名)
- 「王さまと九人のきょうだい」(4名)
- 「おまいうまそうだな」(3名)
- 「スイミー」(3名)
- 「ガンピーさんのふなあそび」(2名)
- 「そらいろのたね」(2名)
- 「からすのパンやさん」(2名)
- 「ふしぎなキャンディーやさん」(2名)
 - ・「ろくべえまってるよ」(以下1名)
 - ・「すてきな三にんぐみ」
 - ・「ぐりとぐらのえんそく」
 - ・「ねずみくんのチョッキ」
 - ・「しりとりのだいすきなおうさま」
 - ・「おおきなかぶ」
 - ・「月ようびはなにたべる？」
 - ・「11ぴきのねこ」
 - ・「せんたくかあちゃん」
 - ・「くさぶえのね」
 - ・「ねずみのでんしゃ」

- ・登場人物Aが登場人物Bのために何かをしてあげた。
- ・最初は…だったけど、最後に…になった。
- ・困ったことが解決した。
- ・アイデアと協力により、問題を解決した。
- ・登場人物が増えていった。
- ・出来事が繰り返された。
- ・それぞれの得意技(個性)を生かして解決した。
- ・～のおかげで～になった。

これらの「つながりの理由」を伝え合い、すり合わせながら図式化したものが、次ページの「『サラダでげんき』お話つながり図」(資料6)である。

この図に示された「つながり」には、「○○という行動をする」「○○という行動が積み重ねられている」のようなストーリー(お話の筋、展開)に関するものや「○○が原因で○○とい



●資料6 / 「サラダでげんき」お話つながり図

う結果が起こる」「○○により、○○に変化が起こる」のようなプロット（作品構造）に関するものが含まれている。

この『「サラダでげんき」お話つながり図』を参考にし、今までの読み聞かせ読書履歴から抽出した共通点を短い言葉によりまとめ、付け加え整理したものが、「1年1組お話つながり表」（資料7）である。1年生にもわかりやすいよう、ストーリー（お話の筋、展開）に関するものを〈お話の「流れ」型〉、プロット（作品の構造）に関するものを〈お話の「つくり」型〉として分類した。

「1年1組お話つながり表」は、一つ一つのお話の具体的な叙述や展開、構造などを背景に成り立っている。読み続けてきた絵本の具体を、抽象度の高い言葉を用いて整理されていることに価値がある。読書履歴の中から抽出された、お話の面白さに迫るための観点表である。この表があることによって、お話の構造や特徴、良

つ づ け	
1 「だんどんふえる」	14 「アイデアを出してかいけつ」
2 「はじめておわりでかわる」	15 「力をあわせてかいけつ」
3 「さいごに…いいこと」	16 「ぶんち・かいけつ」
4 「いっぱい入ってくる」	17 「～のおかげで～する」
5 「くりかえし」	18 「こまったけどよかった」
6 「ともだちどうし」	19 「じつは…だったのだ」
7 「みんながあつまってくる」	20 「そうだったのか大はっけん」
8 「けんか・争がやみ」	
9 「～してあげる」	
10 「けっしんする」	
11 「いれかわる」	
12 「争にかきとる」	
13 「どうしようもなくてくちやう」	

●資料7 / 「1年1組お話つながり表」

さや面白さを探っていくことができるのである。

「1年1組お話つながり表」を活用することによって、子どもたちは、お話を読むための観点、つまり確かな足場をもって読み進めることができる。確かな足場に支えられた子どもたちは、自信をもってお話の良さや特徴、面白さを示すことができるのである。

5. 1年1組お話つながり表」を使ったお話紹介 ー【伝えたい】

伝える場として設定したのは、「次の1年生に『はるのゆきだるま』のお話を教えてあげよう」「おうちの人に『わたしのお気に入り』を紹介しよう」という活動である。紹介する相手を幼稚園の子どもたちからおうちの方へと対象を変えることにより、相手をより強く意識した紹介活動が行えるようになっている。

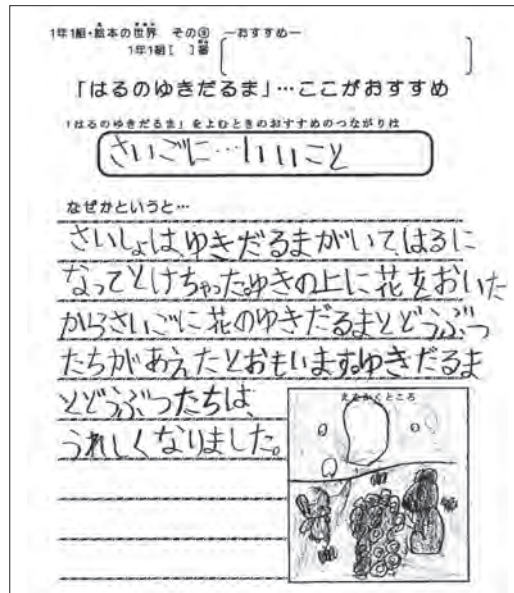
おすすめとして紹介する本は、「はるのゆきだるま」（石鍋美佐子・2月教材）と「お気に入りの絵本No.1」である。教科書教材「はるのゆきだるま」は共通のテキストであり、「お気に入りの絵本No.1」は自由選択のテキストとなっている。共通テキストから自由選択テキストというステップを踏むことにより、どの子どもも無理なく紹介活動が行えるようにした。

(1) 「1年1組お話つながり表」を用いてお話の良さ、面白さにたどり着く

「はるのゆきだるま」のおすすめ紹介は、クラス全員が同じテキストを扱う。しかし、「1年1組お話つながり表」のどの項目を選ぶかについては、個人が決定する。つまり、どの観点から「はるのゆきだるま」に立ち向かうのかは、各自の選択・判断に委ねられる。このような学習経験を重ねることによって、主体的に読む態度を培うことができる。

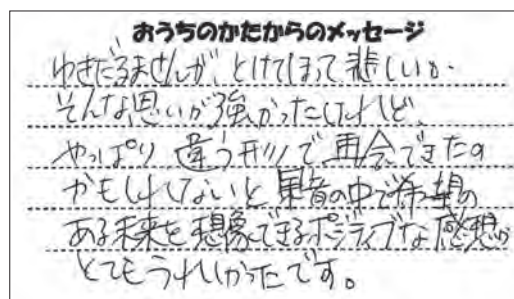
資料8は、おうちの人「はるのゆきだるま」のお話を紹介したカード例である。「1年1組お話つながり表」の中から「さいごに…いいこと」の項目を選び、その観点を用いてこのお話を読んだときに、見つけ出されたお話の良さを紹介している。

「さいごに…いいこと」の内容として、動物たちと花のゆきだるまとの再会を挙げている。とけた雪だるまの上に置いた花が、ゆきだるまの形になって残っていることを発見する結末を動物とゆきだるまの「再会」と解釈している。



●資料8／「はるのゆきだるま」のここがおすすめ

このようなお話の良さを紹介された保護者からは、資料9のようなメッセージが届けられた。この保護者は、作品に対して、ゆきだるまが「とけてしまって悲しい」というネガティブなとらえ方をしていた。しかし、紹介カードを読むことによって、「希望のある未来を想像できるポジティブな感想がうれしい」と述べている。ネガティブからポジティブへ作品のとらえ方が変容していることが書かれている。子どもの読みが大人である保護者の読みを変容させたのである。子どもが行ったお話の紹介が、確かに相手に伝わった証しといえよう。



●資料9／保護者からのメッセージ

(2) 共通テキストから自由選択テキストへ

1年間読んできた本の中から、お気に入りNo.1の絵本を選ぶこと、「1年1組お話つながり表」の項目を使ってそのお話の良さをわかりやすく伝えることが、次の学習のねらいである。「読み聞かせリスト」に載っている絵本は、90冊である。その中から1冊を選ぶのである（資料10）。

具体的には、下に示したような手順である。

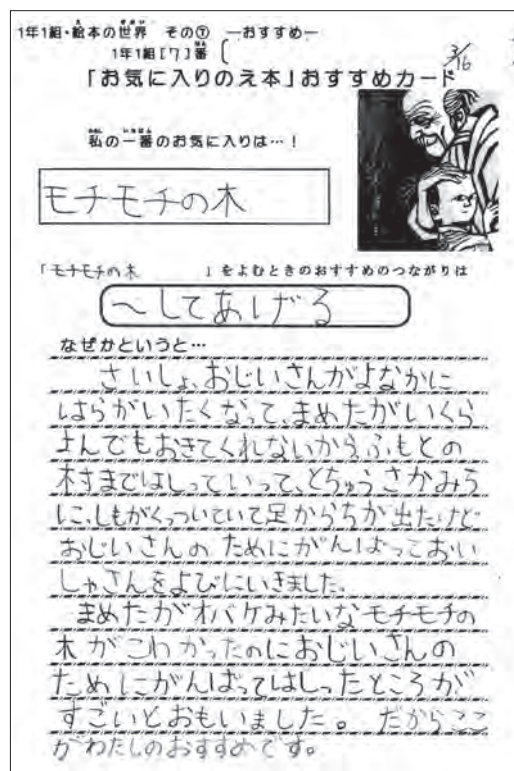
- ・教室に掲示している絵本カードを読む
（読書履歴を振り返る）
- ・「1年1組お話つながり表」の項目を確かめる
（読むときの観点を確認する）
- ・絵本を読み返す
（具体的な叙述を取り出す）

「うちのの人に『わたしのお気に入り』を紹介しよう」の活動が、今までの学習と異なるところは、テキストが自由選択であるという点である。ここでは、資料11のようなカードを用いた。

教科書教材「はるのゆきだるま」のお話紹介カードには、挿絵を描く欄を設けていた。自由



●資料10 / 「お気に入りの絵本」を選ぶ



●資料11 / 「お気に入りの絵本」おすすめカード例（N児）

選択テキストにおいては、紹介する絵本の表紙を印刷したものを切り取って貼りつけるようにした。カードの項目「なぜかというと…」に思考を集中させることができるようカードの変更を行ったのである。

「的確に作品を読み取ること」「自分なりに感想を浮き彫りにすること」「自信をもって伝えること」が十分にできている例が資料11のN児のカードである。N児は、「1年1組お話つながり表」の中から「～してあげる」の項目を選び、その観点から読み取ったお話の良さや面白さを記述している。書かれている内容は、大きく分けて、「好きなところ・面白かったところ」と「好きなわけ・面白かったわけ」の二つである。

「好きなところ・面白かったところ」として、豆太が夜道を走って医者様を呼びに行く場面を取り出し、その場面が「好きなわけ・面白かったわけ」を「モチモチの木がこわかったのに、おじいさんのためにがんばって走った豆太がす

ごい」と二つの項目を関連付け、その因果関係を踏まえた解釈を書いている。

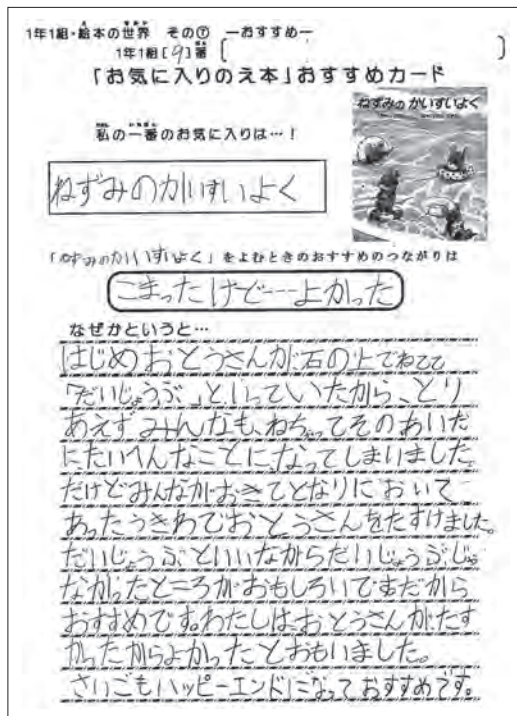
主人公のねがいと行動を具体的に叙述を示し、自分の解釈と感想を明確に書いていることに注目したい。表面的な読み取りだけではなく、お話の主題や特徴をとらえた上で、自信をもってわかりやすくお話を紹介するカードを書くことができている。

(3) 1学期と3学期のカードの変化

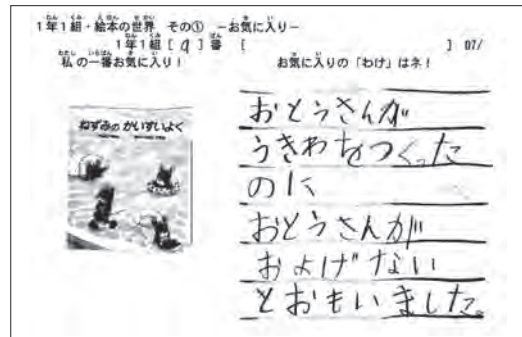
1学期と3学期に書いたカードの内容が、大きく変化している例としてK児のカードを挙げることができる(資料12・13)。

資料12のカードは、K児が3学期に書いたものである。K児は、1学期に書いた「私の一歩のお気に入り」カードにも同じ絵本「ねずみのかいすいよく」を選んでいる。そのカードが資料13である。

資料12と資料13のカードを比較すると、「文意が整った文が増えている」「多様な質の情報が組み込まれている」といった変化を読み取る



●資料12 / 「お気に入りの絵本」おすすめカード例 (K児)



●資料13 / 「お気に入りの絵本」とその理由 (K児)

ことができる。

あらすじが要約され、面白いところが焦点化されて書かれている上に、全体として文章の量が増えている。

資料12では、「1年1組お話つながり表」の項目中から「こまったけど…よかった」という観点を選び、その観点に沿ってお話全体を読み取っている。しかも、本文の叙述を具体的に示すことができている。さらに、その叙述を根拠として、「だいじょうぶといいながらだいじょうぶじゃない」という解釈を引き出し、そこがお話の面白さであるにとらえた上で、自分の感想につなげている。最後には、「ハッピーエンド」であることも付け加えられ、おすすめの幅が広がっている。

6. おわりに

年間を通して「(1)絵本の読み聞かせと感想交流を年間を通して継続する場」「(2)お話相互の共通性を整理集約し、読みどころの観点として活用する場」「(3)自分の考えを『おすすめ』としてまとめ、明確に主張する場」の三つの場の設定を行った。

こうした場を意図的・計画的に位置付けることによって、子どもたちの【読みたい】【知りたい】【伝えたい】という願いを満たす学習活動が実現できた。つまり、①的確に読み取る、②自分なりの感動点を浮き彫りにする、③自信をもって伝えることができる、ようになったのである。